

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2672000136
法人名	有限会社ジェイズ
事業所名	グループホーム芳寿館
所在地	〒629-2312 京都府与謝郡与謝野町字四辻36-2 (電話) 0772-44-1123

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 10 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	9.40 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~60,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷 金	(有)(100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10 月 1 日現在)

利用者人数	9	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1	0	名	要介護2	2	名	
要介護3	2	名	要介護4	4	名	
要介護5	1	名	要支援2	0	名	
年齢	平均	87.2 歳	最低	82 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	いわさく診療所
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

料亭として以前利用されていた重厚な外観をそのまま生かし改築された当該ホームは、1階にデイサービスが併設されています。ホーム内はどの空間も広く、和室には掛け軸が掛けられ、冬場は囲炉裏が設けられ、寛ぎの空間を演出されています。職員は理念とされている利用者の尊厳を大切にし、言葉使いや対応にも気をつけてケアにあたっています。書類も整備され、全職員が利用者個々のケアプランを把握され、統一されたケアがなされています。事前に法人の診療所があり、主治医は毎日時間がある限りホームを訪れて利用者の様子を確認され、24時間の医療連携体制もとられ、ターミナルケアにも取り組まれており、利用者や家族の安心につながっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念について検討をされたり、レクリエーション委員会を設け、レクリエーションの充実を図る等職員間で話し合いながら改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を職員全員に配布して記入してもらい、管理者がまとめて作成されました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族、町職員、社会福祉協議会職員、介護相談員、地域住民、管理者、ホーム職員等が参加して、2か月に一度開催されています。会議では行事や予定についての報告が主な内容となっており、参加者の都合を考慮して日時決定しています。また消防訓練の参加も呼びかけています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回、家族が参加しやすいように行事を兼ねて家族会を開催し、直接家族から意見を聞いています。また夏祭り際には家族にアンケートを取ったり、ホーム入口に苦情箱を設置し、苦情や意見の収集に努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣組に加入し、獅子舞に来てもらったり保育園や小学校との相互交流や、利用者の作品を町の文化祭の作品展に出展されています。またホーム主催の夏祭りに地域の方を招待されたり、地域の一員として、神社の掃除や地域の避難訓練に利用者と共に参加し、地域との交流を積極的に行っています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を加える検討もなされましたが、設立当時に創られた理念である「人としての尊厳を大切に」には人や地域との生活も含めた深い意味が込められており、今後も大切にしていきたいと考えられています。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム入口、事務所に掲示され、職員一人ひとりに浸透しており、常に利用者の気持ちを大切に、出来そうな事を支援しながら、いかに楽しく暮らして頂くを考えながらケアにあたられています。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に加入し、獅子舞に来てもらったり保育園や小学校との相互交流や、利用者の作品を町の文化祭の作品展に出展されています。またホーム主催の夏祭りに地域の方を招待されたり、地域の一員として、神社の掃除や地域の避難訓練に利用者と共に参加されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は職員全員に配布して記入してもらい、管理者がまとめて作成されました。前回の評価結果を受けて、地域密着型の理念について検討をされたり、レクリエーション委員会を設け、レクリエーションの充実を図る等職員間で話し合いながら改善されています。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族、社会福祉協議会職員、介護相談員、地域住民、町職員、管理者、ホーム職員等が参加され、2か月に一度開催されています。会議では行事や予定についての報告が主な内容となっており、参加者の都合を考慮して日時をいろいろ変更しています。また消防訓練の参加も呼びかけています。	○	せっかく多方面からの参加を得ている運営推進会議を単なる会議で終わらせることなく有意義なものにするためにも、毎回テーマを決めたり、必要な関係機関に呼びかけるなどさまざまな形で開催されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症デイサービス開設にあたっての相談や、問い合わせ等、管理者はたびたび役場担当者を訪れ、相談に乗ってもらったり連携がとられています。また定期的に介護相談員を受け入れています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、利用者の暮らしぶりや健康状態を書いた個別の手紙を家族に郵送しています。その際、預かり金の収支を領収書を添付して報告されています。また2か月に一度ホームの季刊誌を郵送しています。面会に来られた際にも、その都度報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族が参加しやすいように行事を兼ねて家族会を開催し、直接家族から意見を聞いています。また夏祭り際には家族にアンケートを取ったり、ホーム入口には苦情箱を設置され、苦情や意見の収集に努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を大切にされており、法人内の異動はなく、職員の異動の際は季刊誌等で家族にも報告しています。新しい職員にはホームの理念を伝え、最初はベテラン職員に付いて、二人対応で利用者馴染んでもらっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修をデイサービスと合同で年間計画をたて、毎月実施されています。外部研修にも随時参加され、報告書や資料は他の職員に閲覧してもらい、会議にて伝達研修されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に事業主が参加されています。近隣に小規模多機能事業所がいくつか開設され、交流を図りたいと考えられています。	○	役場担当者との関係を活かし行政に働きかけ、近隣のホームにも声をかけネットワークづくりを試みられ、管理者のみならず、職員同士の見学や交換研修に結びつくような関係づくりを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居待機時からホームの季刊誌を送付し、ホームの様子を知らせています。また、なるべく本人に見学していただき、納得して入居できるよう支援しています。入居後は家族からの情報をもとに対応を工夫し、家族の協力も得ながら少しずつ馴染んでもらっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にもある利用者の尊厳を大切にし、一人ひとりを尊重しながら対応されています。和室の掛け軸を選んでもらったり、職員から相談を持ちかけたり、ねぎらいの言葉を掛けて頂いたりしながら、共に支えあう関係づくりが構築されています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望は家族から聞いたり、日々のコミュニケーションや行動、表情等からくみ取るようにしています。職員はカンファレンス等で、どうしたら利用者に満足して生活してもらえるかについて常に話し合っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員一人ひとりが利用者のケアプランについて、内容や期間を把握されています。利用者や家族の思いや日々の行動は送りノートで共有し、毎月のカンファレンスには経営者や主治医も毎回参加され、それぞれの意見が反映されたケアプランが作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度評価を行い、計画を見直しされ、見直し前には全職員に意見を聞いています。計画内容を個人記録に落とし込み、チェックしながら毎月モニタリングを行なう等、介護計画にブレが生じないような工夫がなされています。また状態の変化があった利用者についてはその都度見直しされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域密着型認知症対応通所介護を週に6日開催し、利用者同士が交流を行っています。利用者の希望による買い物や外出等、利用者の要望に応じた支援を心がけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、利用者や家族に希望を聞いていますが、以前のかかりつけ医から情報提供を受け、利用者全員がホームの主治医を利用されています。毎日主治医の訪問があり、医療連携がとられ24時間対応可能です。また、眼科の往診や日中はデイサービスの看護師もおられ安心できる体制です。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは、主治医が終末期について、家族に話し意向を確認しています。ターミナルケアは経験があり、利用者・家族の精神面や夜勤の際の職員配置にも配慮し、主治医の協力を得ながら、現在も行っていきます。ターミナルを経験することが職員のスキルアップにも役立っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「親しき仲にも礼儀あり」を実践され、不用意な言葉かけや人前での心ない言葉使いには細心の注意を払っています。また個人ファイルは事務所の外部者から見えないところに保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は起きた順番に朝食を取り、夜も寝たい時に居室に戻ってもらう等、利用者の意思を尊重しています。夏場は晩酌を楽しむ利用者もおられます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人デイサービスの栄養士が献立をたて、利用者と職員は、買い物、下ごしらえ、味見、食器洗い、食器拭き等、出来ることは一緒にされています。利用者は職員と一緒に会話しながら食事を楽しまれています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回以上は入浴できるよう支援されています。希望があれば毎日や夕食後20時半までの入浴も可能な体制です。入浴拒否が見られる利用者には、声かけや職員を変えて対応する等工夫しながら支援されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯干し、洗濯干し・たたみ等の役割を持っていただき、盆栽の世話や野菜作りをされている利用者もおられます。剣道経験者の利用者はリハビリを兼ね素振りをされたり、囲碁や将棋をデイサービスの利用者や職員と楽しまれています。ホームではレクリエーションを通じて利用者の楽しみの支援をされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々食材の買い物や散歩に出かけています。気候の良い時期には行事での外出を月に一度くらいで予定し、ドライブや外食を楽しまれています。出かけられないときは、ベランダで日光浴したり、プランターの野菜作りを楽しまれています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階に位置するホームですが、1階のデイサービスと連携しながら、日中は一切施錠していません。エレベーター付近に利用者がある時は、職員と一緒に外に出て散歩し、気分転換を図っています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いのもと夜間を想定して、階下のデイサービスと合同で避難訓練を実施されています。また運営推進会議や地域の一員として避難訓練に参加した際に、近隣に協力の声をかけを行なっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000ccを基準として利用者ごとに総水分量と食事摂取量を個人記録に記入して把握しています。また利用者の状態に応じて食事形態を変えて提供し、栄養バランスは法人の栄養士に献立を立ててもらっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く床暖房が施され、中央にカウンター式キッチンを配し、電磁調理器で安全に調理されています。ホーム入口の掲示板には利用者の作品が飾られています。また和室も広く、季節感を感じてもらうために、掛け軸や生け花を飾り、利用者の静養に利用したり、冬場は囲炉裏を設け、火を入れています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアは車椅子も十分通れるスペースの引き戸で、ベッドとタンスはホームが用意しています。希望があれば、畳の部屋も用意できます。利用者は家具、テレビ、仏壇、裁縫道具、ぬいぐるみ等、馴染みの品を自宅から持参され、居心地良く過ごされています。		